氏　　名	原　田　聡　介
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博甲第　4493　号
学位授与の日付	平成２４年３月２３日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 （学位規則第４条第１項該当）
学位論文題目	The Usefulness of Pre-Radiofrequency Ablation SUVmax in ^{18}F-FDG PET/CT to Predict the Risk of a Local Recurrence of Malignant Lung Tumors after Lung Radiofrequency Ablation （肺悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法後の局所再発予測における治療前^{18}F-FDG PET/CTのSUVmax値の有用性について）
論文審査委員	教授　三好 新一郎　教授　木浦 勝行　准教授　渡邊 豊彦

学位論文内容の要旨

肺悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法（RFA）前の ^{18}F-FDG PET/CT における SUVmax が局所再発予測因子であるかについて検討した。2007 年 1 月から 2008 年 5 月まで岡山大学病院で肺 RFA 治療が施行された連続症例について、後ろ向きコホート研究を行った肺 RFA 施行前 90 日以内に ^{18}F-FDG PET/CT が撮像されている症例（原発性肺癌：10 症例、転移性肺癌：29 症例）を選定し、SUVmax の 3 分位によって低値群、中間値群、高値群の 3 グループに分類した。

多変量解析を用い低値群に対する中間値群と高値群の再発オッズ比を算出した。結果に影響を持つと考えられた共変量を1つずつ加え、SUVmaxと局所再発の関係を検討した。SUVmax 高値の腫瘍群ではより高い局所再発のオッズ比が得られた（中間値群；1.84，高値群；4.14）。腫瘍径に関しても再発オッズ比が高かったが、これは今回の研究において SUVmax の信頼性の観点から直径 10 mm 未満の結節を除外した選択バイアスのためと考えられた。本研究により、肺 RFA 前の PET/CT における SUVmax が局所再発を予測する因子であることが示された。

論文審査結果の要旨

本研究は肺悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(RFA)前の FDG-PET/CT における SUVmax が局所再発予測因子であるかについて検討したものである。

2007 年 1 月から 2008 年 5 月までの間に岡山大学病院で肺 RFA 治療が施行された連続症例について、肺 RFA 施行前 90 日以内に FDG-PET/CT が撮影されている症例を選定し、SUVmax の 3 分位によって低値群、中間値群、高値群の 3 グループに分類している。39 症例の RFA 治療後経過観察中に腫瘍再発が 9 例に認められた。多変量解析を用いて低値群に対する中間値群と高値群の再発オッズ比を算出した結果、SUVmax 高値の腫瘍群ではより高い局所再発のオッズ比が得られた。これらの知見は、肺 RFA 前の PET/CT における SUVmax が局所再発を予測する因子であることを明らかにしたものであり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。